

## 世界の歴史都市・東京

「世界史を彩った都の物語」という副題がついた、2016年9月刊行のビジュアル版である。世界70の大都市(ロンドンとパリは2回)をビジュアルに解説している。写真を見ているだけで楽しくなる。日本からは「近代初期の世界」に京都、



「近代都市の時代」に東京が取りあげられている。「東京 たえず変化しつづける都市」を紹介しよう。

東京は、きわめて活気にあふれた都市である。つねに変化の途上にあり、少なくとも初めて見ると、古いものはほとんどないように感じる。この永続性に欠ける感覚は、この都市のはじまりからの構造も一役かっている。1590年、徳川家康は、まだ辺ぴであった関東の江戸に拠点をおいた。背後を山々が囲み、そばに大河が流れ、正面には守りを固めやすい湾がある。この立地条件と暮らしやすい風土を家康は大いに気に入った。戦国の武将で賢い為政者でもあった家康は、まもなく天下を手中にし、征夷大將軍として江戸に徳川幕府を開いた。江戸は、巨大都市に成長していった。

1868年、徳川將軍の江戸幕府は滅びた。天皇が京都から移り、江戸は「東京」と改称し、江戸城一帯は天皇の宮城(現在は皇居とよぶ)に変更された。1923年の関東大震災によって、東京は壊滅的被害にあった。第二次世界大戦では、はげしい空襲によってまたも大惨害をこうむった。敗戦直後にアメリカ軍が到着したときの東京は、大半が灰燼の海であった。人々は都市の復興、建設に懸命に取り組んだ。戦災による焼失をまぬがれた建物はいくらか残ったが、東京は戦前の風景と大きく変わる。

東京で紹介されている写真は、関東大震災後の東京、浅草寺、西新宿の超高層ビル群と都内の建物の背景をなす富士山、表参道のディオールビル。東京の摩天楼は、建築理論上はじゅうぶん耐震性をそなえている。しかし、東京で暮らす人々は、地震がいつか直撃するだろうという思いがあり、誰もが一抹の不安をかかえている。東京湾の埋立地に建設された住宅も多く、大地震がおきればもろい地盤は液状化するかもしれない。



東京は、超現実的な夢をかなえる建築家の天国とよばれてきた。ネオンの光が眩しさをまし、新しい建築物はキラ星のごとく、ますます空の高みへ挑んでいる。しかしその一方で、浅草寺では香が焚かれ、煙と匂いのたちこめる境内は昔と同じようにたくさんの参拝客で賑わっている。東京は、過去と現在に抱かれつつ未来にふさわしい姿に更新をつづけている。

(2017年1月16日)